



# 結核しずおか

9号2002年4月25日

発行所

財団法人結核予防会静岡県支部  
〒420-0915  
静岡市南瀬名町6-20  
TEL 054-261-2512  
FAX 054-261-9474  
Eメール tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp  
発行責任者 金原明彦  
印刷 三協印刷株式会社



(写真提供 富士市 一条義明氏)

## 新任事務局長就任所感

この度、当支部の常務理事兼事務局長を拝命し、その職責の重さと支部の果たす役割の重要性を日増しに感じるこの頃です。

昭和初期から昭和25年にかけて、結核は国民病として死因のトップにあり、その後、医療の進歩、栄養や衛生状態の改善等により、結核は「過去の病気」として忘れ去られました。ところが日本では、平成9年に感染者が反転微増でジワリと増加。世界では1993年(平成5年)には17億人が感染し、世界保健機構(WHO)が「非常事態宣言」を行ったほどです。

結核は克服された「過去の病気」ではなく、わが国最大の感染症で現に事業所、学校等での集団感染の散発があります。わが国では、1日で約120人が発病し、毎年3,000人近くの方が亡くなっております。この感染症は、油断はできないが耐性菌による感染など特別なものを除き、既に治療法は確立しています。一方、風邪に似た初期症状への注意、レントゲンによる年1回の定期検診など結核に対する関心を持ち続けることが大切です。

今まで私の結核に対する知識は乏しく、ここに勤務して改めて「結核への正しい理解」や「早期発見」、「早期治療」の大切さを痛感し、それを県民の皆様にご理解いただくための効果的で、しかも効率の良い手段・方法は何か、私ども職員一同に課せられた課題でもあると考えております。

当支部では、検診結果をなるべく早く関係先に連絡し、早期発見、早期治療へと繋げております。県民の皆様への結核予防思想の普及啓発、広報の仕方、関係機関・協力組織との連携、身体の不自由な方が受診しやすい環境づくり等に今後も工夫を凝らしてまいります。

仕事や家庭生活、趣味、スポーツ等においても全ての源は、心身共に健康であることに尽きると思います。幸い私は、大きな病気に罹ることなく今日に至っておりますが、健康な身体に改めて感謝し、当支部の事業を通して「ストップ ザ 結核」に邁進してまいりたいとの決意を新たにいたしました。

今後とも当支部の活動に対しまして、一層の御理解、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成14年4月

財団法人結核予防会静岡県支部  
常務理事兼事務局長 金原 明彦



# 平成14年度 事業計画

## I 教育・広報事業

### 1 行事による教育広報

#### (1) 全国結核予防週間における啓発

静岡県、市町村、静岡県結核予防婦人会などと連携し、マスメディアなどの媒体を通して結核予防思想の普及・啓発に努める。

ア 期 間 平成14年9月24日(火)～30日(月)

#### イ 実施内容

##### ① 街頭キャンペーンの実施 平成14年9月28日(土)

- ・ 静岡県、静岡市、静岡県結核予防婦人会と協力して、街頭無料検診実施や結核予防のリーフレット、ポケットティッシュなど配布し、結核予防思想の普及啓発を図る。
- ・ 静岡県結核予防婦人会各支部の協力を得て、県内各地において結核予防のリーフレット、ポケットティッシュなどの配布とともに複十字シール募金運動街頭キャンペーンを実施し、結核予防思想の普及啓発を図る。

##### ② ポスター等広報資料を県・市町村等に配布

結核等の正しい知識と対策が広く県民に十分浸透するよう、掲示・配布をお願いする。

##### ③ 結核対策のための複十字シール運動の大切さと募金協力のお願いを新聞に掲載する。

#### (2) 静岡県結核予防大会の開催

静岡県結核予防婦人会と共催で、静岡県の後援並びに市町村の協力を得て、全国結核予防週間に実施する。

ア 開催日 平成14年9月27日(金)

イ 開催場所 静岡県総合社会福祉会館7階ホール

#### ウ 実施内容

##### ① 特別講演

##### ② 結核予防功労者、結核予防功労団体の表彰

#### (3) 結核予防全国大会(54回)への参加

平成15年3月24日前後に宮城県仙台市で開催される結核予防全国大会に県、市町村、静岡県結核予防婦人会員が参加して、結核予防に対する知識の向上を図る。



### 2 教育広報資料の作成・配布

#### (1) 広報誌「結核しずおか」の発行

年3回(4月・9月・1月)発行し、結核予防に関する普及啓発並びに当支部事業のアピール等の記事を掲載する。

県・市町村・病院(呼吸器内科)等関係機関、事業所、複十字シール募金者等に配布する。

#### (2) 標語付きカレンダーの作成配布

県・市町村及び関係機関に配布する。

#### (3) 結核予防ポスターの配布

県、市町村、学校、事業所及び関係機関に配布する。

#### (4) 「結核リーフレット」の配布(結核予防会本部作成)

県、市町村、学校、事業所及び関係機関に配布する。

#### (5) 冊子「複十字」の配布(結核予防会本部作成)

県、市町村及び関係機関に配布する。

#### (6) 冊子「健康の輪」の配布(社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会作成)

県、市町村及び関係機関に配布する。

#### (7) 啓発用ビデオテープ、パネルなどの貸し出し

県、市町村及び関係機関に配布する。



### 3 報道機関との連携

結核関係の主要行事、結核関係資料等ニュース素材の提供を静岡県所管室を通じて行い、報道での取り上げを依頼する。また、静岡県が行う広報事業に積極的に協力する。

4 関係機関、協力組織との連携

(1) 静岡県結核予防婦人会は結成以来、当支部と連携を密にして結核予防活動を行っているので、全面的に協力並びに支援を行う。

〔協力・支援事業〕

- ア 静岡県結核予防婦人会総会
- イ 地区支部長・担当者会議
- ウ 結核予防リーダー研修会
- エ 全国結核予防婦人団体幹部中央講習会（第6回）参加

- ① 開催日 平成15年2月中旬
- ② 開催地 東京

(2) 県・市町村が行う健康祭等へのイベントに参加  
結核、肺がんのパネル等を出展して、参加者に対して結核及び肺がんの予防等の普及啓発を行う。

- ア 県健康関係事業“しずおか健康創世21事業等”
- イ 県女性総合センター“県民の日イベント”
- ウ 裾野市・清水町・伊豆長岡町“健康まつり”



II 資金造成事業

- 1 複十字シール募金運動（特別会計）
- 2 出版物の斡旋（特別会計）

本部発行の結核関係等の専門図書、刊行物の斡旋を行う。

III 検診事業

結核予防法による結核検診、老人保健法による肺がん、胃がん検診及び労働安全衛生法による事業所検診を実施し、もって資金造成に充てる。

平成14年度計画

(単位：人)

検診事業項目	学校検診事業	住民検診事業	事業所検診事業	その他(定期外等)
間接撮影	44,600	150,000	56,000	2,500
直接撮影	2,400	3,000	4,000	1,500
肺がん検診		115,000		
肺がん喀痰細胞診		4,000		
胃がん検診				7,500
総合検診(法定等)			11,000	

IV 施設・設備の整備

X線車1台を購入するとともに、平成12年度に整備したコンピュータシステムの本格的な稼働を行ない、検診業務をより充実させる。

V その他

1 会議の開催

- ア 理事会並びに評議員会 年2回開催
- イ 業務連絡会議 月1回
- ウ 各種委員会 必要の都度
- エ 市町担当者会議

受託市町の検診業務の円滑化を図るため、前年度の反省を踏まえて来年度計画の打合せを行う。また、結核予防思想等の普及啓発のための講演を行う。

2 研修会、講習会への参加

(1) 結核予防会本部主催

- ア 結核予防全国大会（宮城県）
- イ 結核予防会支部東海北陸地区ブロック会議（愛知県）
- ウ 結核予防会保健事業運営協議会（長野県）
- エ 結核予防会事業連絡協議会（東京都）
- オ 結核予防会全国支部事務局長研修、事務連絡会議（東京都）
- カ 結核研究所が行う各種研修及びセミナー

(2) 学会、各種団体主催

- ア 学会、各種団体が行う研修会、講習会に積極的に参加し、知識、技術の向上に努める。
- イ 検診業務に必要な資格取得の講習会に参加する。



## 第53回結核予防全国大会に参加して

めんそうーれ「いらっしゃいませ」の大きな垂れ幕が空港から那覇市内への入り口で我々を迎えてくれた。

第53回結核予防全国大会（平成14年3月26日～27日）の始まりである。

宜野湾市の沖縄コンベンションセンター劇場棟と会議棟に全国から1,500名以上の保健医療関係者が集合。沖縄県の本土復帰30周年にあたることから沖縄支部の歓迎ぶりはなかなかで、まず会場入り口で多剤耐性菌、結核菌等のぬいぐるみでの出迎えである。

第1分科会は、新しい患者発見のあり方をテーマとした結核対策の2つの柱「見つけた患者を徹底的に治癒させること」「できるだけ患者を見つけること」を多くの発言者により約3時間にわたって討議した。

キックオフ発言の厚生労働省健康局結核感染症課長・中谷比呂樹氏の提言



- \* 基本認識：疫学的変化（高齢化、患者の偏在）
- \* 予防BCG再接種中止、検診の重点化  
定期外検診の整理、接触者検診の重視
- \* 医療：DOTSの普及、標準治療法の徹底、結核臨床の機能分化—治療完了率向上
- \* 行政インフラ：保健所の再活性化、感染症法との整合性  
その上で、結核予防法を単独立法として維持すべき等との大変興味深い発言であった。

第2分科会は「治（の一）いんどー（治るよ）結核、しっかり予防きっちり治療」をテーマに開催された。序幕「沖縄の結核今昔」は、琉球政府時代からの結核対策を紹介。講演は森亨結核研究所長が、これからの結核対策を話され「これまでと同じことをしていれば、これまでと同じ結果しか得られない。」とまとめられた。演劇は秋篠宮妃総裁もご覧になれる中、結核予防に携わる沖縄県の皆さんがエイサーを織り交ぜて熱演し満場の拍手を浴びた。



特別講演「沖縄文化の多層性—音楽を中心に—」

琉球大学 泉 恵得教授が琉球王国約700年間の歴史、琉球の伝統音楽の追及等時間をあきさせない講演で、最後に自身が東京芸大音楽科大学院ソロ科卒業で初恋の曲他2曲を独唱し会場から大きな喝采をあげ2日間の幕を閉じた。

二日目の式典で結核予防会総裁秋篠宮妃殿下は「今こそ結核の現状を認識し、学問の進歩に基づいた正しい知識の普及、啓発に努めていくことが大事です。」とお言葉を述べられた。

青木正和会長は「患者の高齢化・集団感染、大都市や若者の感染の微増など対応の難しい問題が増えている。我が国は大きな変わり目の時だが、結核の分野ではさらに大きな変革の時を迎えている。」との挨拶があり、第53回結核予防全国大会宣言が採択された。

大会終了後、沖縄本島日帰り南部観光に申し込み40人の全国からの参加者と共に首里城公園・泡盛工場・那覇市伝統工芸館を見学し、沖縄の歴史にふれ充実した一時を過ごした。

2日間の大会を通じ支部の職員として県民の結核への意識をいかに高めるか、普及啓発をどう進めるべきか大きな宿題を抱えて今悩んでいます。



白鳥岩男・宮本唯男

## 職員研修

二年目を迎えた平成13年度には研修に対する意識も高まり、職員の協力のもと自ら計画立案し、忙しい仕事の中実施することができました。

### ☆ 救急救命処置講習会

年月日 平成14年2月14日～21日

場 所 静岡市東消防署

講 師 静岡市東消防署救急係員

内 容 心肺蘇生法を学び、普通救命講習修了証を受けました。



### ☆ 避難訓練

年月日 平成14年2月22日

場 所 (財)結核予防会静岡県支部

講 師 静岡市東消防署予防係員

内 容 模擬火災訓練・消火実演・小講演が行われました。

### ☆ サービスマナー講習会

年月日 平成14年2月25日

場 所 (財)結核予防会静岡県支部

講 師 E&Eプロモーション代表

石割 郁子 氏

内 容 接遇の基本と見直し、ロールプレイにより身に付けることができました。



## 市町村保健センターの紹介



### 温泉のまら 伊豆長岡町

伊豆長岡町は、静岡県東部伊豆半島に位置する東西4 km、南北5.6 kmで面積16.52km<sup>2</sup>の小さなまちです。長岡という名前は、平安時代にこの地に流された宮人が豊かな自然と美しい里を見て「この眺めは、京の長岡によく似ている」と喜ばれたところから命名されました。

伊豆長岡町は名前の由来からも窺えるように、自然のとても豊かなまちです。湯量が豊富で泉質にも恵まれた温泉は特に有名ですが、ほかにも春には、いちご狩りや菜の花、6月には、まちな花でもあるあやめ、秋・冬には、みかん狩りが有名で1年中楽しむことができます。また、かつらぎ山から眺める富士山は絶景で、観光客や地元の人々をうっとりさせてくれます。そのため、年間を通して沢山の観光客が訪れます。

平成13年度、町では「伊豆長岡町花ごよみ」が制定され、各月の花を植えるなど、花いっぱい、緑いっぱいのまちづくり運動がすすめられています。日本一美しいまち、魅力（ゆめ）ある人とまちを目指し、日々活動しています。

### ○ 健康チェックをして、いつまでも元気な体をつくる！

伊豆長岡町では、毎年7月に集団胸部レントゲン検診を実施しています。小さなまちではありますが、3つの会場で行われ、どの住民にとっても近くで受けられるようにしました。歯周疾患検診も同時に実施され、毎年多くの方が受診しています。また、平成13年度は健康まつりでも胸部レントゲン検診を行い、参加者の検診と結核の知識の周知を図ることができました。結核予防会のスタッフの皆様には、毎年多大な御協力をいただき深く感謝いたしております。

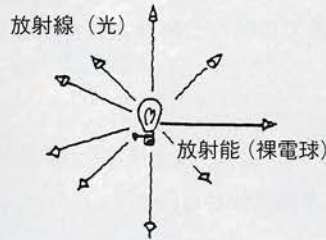
基本健康検査は、平成12年度より、より多くの方が受けられるように集団検診から医療機関での個別健診へ変更しました。医療機関によっては夕方や土曜日でも実施しているため、昼間仕事などで受けられない方でも受けやすくなりました。また、期間も7～8月の2ヶ月間としたため、住民の都合の良い日や時間に受けることが可能となりました。健診後も、要指導域の方には生活習慣調査を行い、一人一人に丁寧に指導しています。住民は健診の結果から生活を振り返ることができ、いつまでも元気な体づくりに取り組んでいます。

(伊豆長岡町保健センター 望月 麻衣子)



放射線と放射能は、どのように違うのですか？

放射能とは、今ここにある不安定な物質があるとします。この物質はエネルギーを放出し、別なより安定な物質に近づこうと変化します。このように、放っておいても勝手に（つまり自然に）エネルギーを放出して他の安定あるいは不安定な物質になってしまう性質をもつ場合をいいます。このとき放出されるエネルギーのことを、放射線と呼びます。



★誰にもわかる「学習」は「楽習」です。  
 例えば、身のまわりにある裸電球で考えてみましょう。右の図で裸電球が放射能、電球からの光が放射線と考えれば放射能と放射線との区別がつくと思います。

(検診部検診課 渡井 雅文)

キ～オさんの一日

作画 こ～いび



キ～オさんは、国立魔女学校の教師です。



コラム

結核予防会静岡県支部での1年を振り返って

早いもので、当会に採用されて1年が経ちました。始めの頃は、期待と不安で一杯でした。一番不安だったのは、事務の仕事で正直、高校卒業以来あまり机に向かったの仕事をするのではなく、「字を書く」、「文章を読む」などの機会がなかっただけに自分にはできるのだろうか、という不安がありました。

4月に入り、いよいよ学校健診がスタートし、初めての健診で何も分からない自分を上司、先輩が優しく、丁寧に指導して下さり、そんな不安も一度に吹き飛んでしまいました。本当に良い上司、先輩に恵まれ、良かったと思っております。



特に、予防会に採用されて良かったことは、県民の健康を守る仕事であり、また生活の安定性でした。以前は建築関係の仕事をやっていた、仕事がない時は、いろいろアルバイトをしてきました。そのため家族には、心配をかけてきましたが今は、休みも充実し家族と一緒に過ごせる時間も、とても満足しています。

昨年4月から12月までの健診業務を無事に終了して、いろいろと反省する点がありますが、この反省点を踏まえて、これからも日々努力して予防会のため、自分のために全力で頑張りたいと思います。

(検診部業務課 勝俣 精二)

# お知らせ

## ○平成14年度の行事日程

- 結核予防週間 9月24日(火)から9月30日(月)**  
 毎年この一週間、全国一斉に結核予防の運動が展開されます。  
 本支部では、関係機関、団体とともに次の行事を予定しています。
  - 静岡県結核予防大会 9月27日(金) 午後1時30分から 静岡県総合社会福祉会館
  - 結核予防・複十字シール街頭キャンペーン 9月28日(土) 午前10時から  
静岡市青葉イベント広場
- 複十字シール運動期間 8月1日から12月31日**  
 この期間全国一斉に運動が展開され、本県では結核予防婦人会が中心となって募金活動を進めます。
- 世界結核デー 3月24日**  
 ロベルト・コッホが結核菌を発見した日です。この日の前後に全国の結核対策関係者が集います。
  - 第54回結核予防全国大会 3月24日前後 宮城県仙台市
- 平成14年度複十字シール図案**  
 今年の複十字シールは、安野光雅画伯のデザインです。  
 動物も子供も乗り物も一緒に楽しいシートになりました。



みんなそろって健康診断  
 結核検診  
 肺がん検診  
 胃がん検診

## 5 新刊案内

「知って治そう 結核マンガ」

結核予防会複十字病院医師

尾形英雄 監修

B5判・24頁 定価840円

カラー・マンガ中心の分かり

易い構成で、結核の基礎知識

を幅広く網羅しています。

一般の人にも医療従事者にも

読んでいただける内容です。



安野光雅(あんのみつまさ)画伯:大正15年島根県生まれ  
 昭和43年絵本「ふしぎなえ」で絵本界に登場、淡い色調でやさしい雰囲気の漂う作品を発表しています。国際アンデルセン賞受賞

## 職員の表彰

平成14年2月22日、日本放射線技師会55周年記念式典において診療放射線業務功労者として本会職員が厚生労働大臣表彰を受けました。



吉村正己(検診部長)



総務課  
中川エミ



検診課  
榊原智子



掛川分室  
大石統彦

## 新職員紹介

4月1日採用の3名です。よろしくお願いいたします。

### 編集後記

当支部に新たに4人の職員が採用されました。本来ならこの時期、事務所近くの長尾川沿いの桜が、表紙の写真のような満開の桜で迎えてくれるはずだった。生憎今年は、桜前線が例年よりかなり早く残念ながらタイミング的に合わなかった。"来年も咲くサ"とゆったり気分で来年に期待。読む人のためになる、読んでもらえる機関紙を!と心掛けていたが、まだまだ未熟の感あり。努力を続けてまいります。(A. K)

【題字: 田中隆: 元支部職員】